

『角田(かくだ)+便り(たより)』と『Fromかくだ(角田より)』の2つの意味を組み合わせています。
角田市で活動する“ひと”や“市民活動団体”の今をお届けします。



北郷自治センターでのまどいの会の様子

気軽に話そう♪暮らしや地域のあれこれを — まどいの会@北郷地区

2月13日(金)、角田市社会福祉協議会が主催する「まどいの会@北郷地区」にお邪魔しました！市社協では、『住み慣れた地域で元気に暮らし続けるための仕組みづくり』を行っており、関係機関とのつなぎ役を担う生活支援コーディネーターにより企画されました。タイトルのまどいは「円居」と書き、円になり親しく交流しましょうという意味が込められています。地域のこと、暮らしの中で気になることなど、お茶のみをしながら気軽に情報共有を行うことを目的に開催されました。

当日は、北郷の複数の地区から約20名が集いました。どのグループも元気にわいわいとお話が盛り上がっている様子が印象的でした。「他地区の人とお話できて楽しかった」「沢山のことを知り、驚きと意欲が出ました」など様々な感想があったそうです。集いの場(サロン活動)が市内で一番多く、活発に活動する人が多い北郷地区。今後の住民活動にも期待が高まります！

みやぎNPO情報ネットで発信中！

NPOや市民活動団体の皆さんが自身で情報発信ができるサイト「みやぎNPO情報ネット」内に角田市市民活動支援センターのアカウントを新設し、随時情報発信をしています！

デジタルでの情報発信媒体として、団体訪問の様子やイベントのお知らせなど、いち早く公開しますので、ぜひ以下のQRコードよりご覧ください。

市民活動支援センターの
アカウントはこちら▶





かくだで
活動するひとの
きっかけを発信！

かくだびと

ふじさき たかし

藤崎 隆 さん NPO法人かくだ共育ちの会 理事長



No.08 「こどもは私たちの宝物」

かくだ共育ちの会は、角田市小田地区で0～2歳児の小規模保育をおこなっています。

藤崎さんが夫婦で認可外保育所を開設したのは約40年前。当時、市内の公立保育所は生後4か月以上でないとい預けられず、保育の受け皿が十分でない状況でした。藤崎さんは市内の保育のニーズを調べ、生後2か月からの子どもを受け入れ始めました。

「認可外で補助金が得られず苦勞した」と話す藤崎さん。それでも預け先に困った保護者が白石や亘理、岩沼などから訪れたり、「子どもを預けないと働けず、生活していけない」という切実な思いもあり、認可外だからこそ柔軟な対応で受け入れてきました。

国や県に保育環境の改善を働きかける活動もしながら、平成20年にNPO法人を設立。さらに保護者の後押しもあって認可保育所として認められ、現在は認定こども園と連携して保育の充実を図っています。

団体名でもある「共育ち」には、子ども同士、子どもと親、親同士や職員同士、地域でともに育ちあう、という意味が込められています。『楽しく、おもしろく』を保育目標に、子ども達が自由に学び、遊び、育つ環境を築いていく」と展望を語ってくれました。

NPO法人かくだ共育ちの会
宮城県角田市小田字大原2-7
電話：0224-62-0647 FAX：0224-62-0753



おのやま くに

尾山 邦 さん 横倉コム・アスターズ 代表



No.09 「横倉の明日を考え、野の花のように地道な実践を」

横倉コム・アスターズは、平成18年3月に結成されたボランティアグループです。『明日の横倉を考え、主体的な地域づくり活動を行う仲間と共に、目標と課題を共有しながら、地域再生を行う』ことを目的に立上げられました。“コム・アスターズ”という団体の名前は、Community:地域 Aspiration:願望 Assist:援助 Aster:雑草の総称...の意味を繋ぎ合わせ、野の花のように地域で地道に実践をしていきたいという願いが込められています。

「地域の子どもの見守り」「横倉の新しい景観づくり」「みやぎスマイルロードサポーター活動」の3つの事業を中心に行っています。子ども見守り活動は、35名のメンバーで月～金曜日まで3か所で1年生の下校時の

事故防止とお帰りの声掛けながら実施しています。みやぎスマイルロードサポーター活動は、国道113号線の清掃を行っており、宮城県知事や国土交通大臣から受賞するなど多くの受賞経歴を持つ活動です。コロナ禍で思うように活動ができず悩む時期もありましたが、年3回懇親会を開催し、コミュニケーションを取りながら活動しています。「会員はあまり多くありませんが、会員同士協力しながら活動を行っていききたい」と、穏やかな表情で語ってくれました。



◀横倉コム・アスターズの事務局を担う3人

みやぎNPO情報ネットに▶
団体紹介記事掲載中！





「角田市行政区長連絡協議会研修会」の運営支援を行いました！



▲研修会での「活動自慢」発表の様子

2月13日(金)に「角田市行政区長連絡協議会研修会」が開催され、センターでは研修会の企画・運営協力を行いました。当日は75名の行政区長と8名の自治センター長が参加し、活発な意見交換の時間となりました。

今回のテーマは「地域の自慢から始まるまちの活性化と交流」。角田市のまちをよりよくしようと各行政区・市民が主体的に行う「活動自慢」をコンセプトに、市内での身近な取り組みを学び合い、それぞれの地域活動に生かしていくことを目的に実施しました。

前半は市民活動団体をはじめとする4団体による事例発表、後半は参加者の意見交換を交えたワークショップの2部制で実施しました。事例発表では、市民活動団体(NPO)よりNPO法人スポーツコミュニケーションかくだに登壇いただき、団体がつスポーツの専門性と地域活動を掛け合わせた連携事例について紹介していただきました。西根地区振興協議会からは協議会から派生した「にしねっと(仮)」の取り組みとして、若者が主体となった地域おこし活動について話し

ていただきました。行政区の事例として枝野4区からは菜の花まつり実施による多世代コミュニケーションについて、高畑南行政区からは公民館を拠点にした平時のコミュニティづくりと防災など有事にも生かす取り組みを紹介していただきました。

地域性など活動背景が異なる事例を学ぶよりも、共通の課題を共有しながら、「同じ角田市でやっている活動」から刺激と気付きを得ることで、これからの地区活動を考える機会になったことが伺えました。

今号での全3ページにわたる開催レポートに加え、「みやぎNPO情報ネット」でも、写真とともに当日の様子をお届けしています。ぜひご覧ください。



▲テーブルごとに感想や自身の地区の状況を意見交換



クラブマネージャー
遠藤良則さん

NPO法人スポーツコミュニケーションかくだ

発表のポイント

- ◎新しいスポーツスタイルの提供と定着を目標に、総合型スポーツクラブとして活動
- ◎行政区とコラボで**ニュースポーツ(ボッチャ)体験会**を実施

Q:なぜ、他の市町から参加者が集まる？

A:リーズナブルな会費で多種目に参加でき、道具の無料貸し出し等がある**角田オリジナル**の形が受け入れられている。



にしねっと(仮)メンバー/
西根地区振興協議会
太田歩美さん

西根地区振興協議会

発表のポイント

- ◎西根地区振興協議会の若手グループとして「にしねっと(仮)」が2025年5月に発足。
- ◎地区の活性化・住民の交流促進を目的としたイベントを企画している
- ◎地区を元気にするため「**ピザの村・NISHINE**」計画発案。ピザ窯活用したイベント企画中

Q:仲間づくりのコツは？

A:集まった当初は知らない人同士。メンバーがお互い**負担をかけず楽しく進める**ことを大切にしている。今のメンバーは5人だが、人数を増やすのを急いではない。活動の方向性に合う人をゆっくり探していければ。



枝野4区行政区長
佐藤孝一さん

枝野4区行政区

発表のポイント

- ◎多世代が顔を合わせコミュニケーションを行う機会『**枝野4区菜の花まつり**』
- ◎世代ごとの**各組織の協力**・役割分担・参加費1,000円(1戸)で無理のない運営
- ◎コロナで**4年休んだが復活!**毎年参加者約100名

Q:年にどれくらい行事を開催している？

A:菜の花まつりの他に、向日葵や水仙植え、夏祭りなども行っている。菜の花まつりはGWに開催のため、連休で帰省する人もおり参加率が高い。



高畑南行政区長
遠藤泰己さん

高畑南行政区

発表のポイント

- ◎地区内の**繋がりがづくり**/住民の**声を拾い課題解決につなげる**機会『**各班の懇談会活動**』
- ◎地区でできることは自分たちで解決し、できないことは外部につなぐ
- ◎**平時の繋がりを災害時へ**(防災訓練140世帯参加)

Q:大所帯をまとめるコツは？

A:地区民との**関係性や繋がりがづくり**を大切にしている。役員とは**LINEグループ**で密にやり取りをし、行政区活動へ理解をしてもらっている。集まる場を定期的につくり、**地道な話し合い**を重ね解決につなげている。

参加者の声

角田市内で人口減少の中、努力している人が
沢山いることに気づいた。

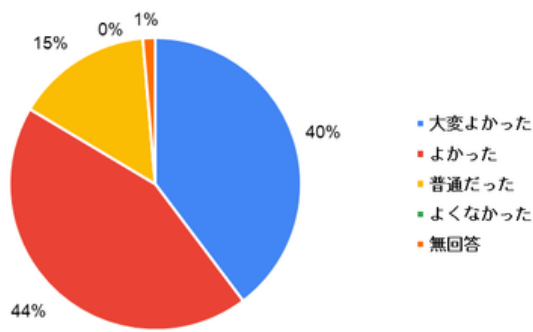
他地区の区長さんと意見交換や交流ができ、
勉強になり良かった。

若い人達の参加、後継者不足に悩んでいる
区長が多いと感じた。

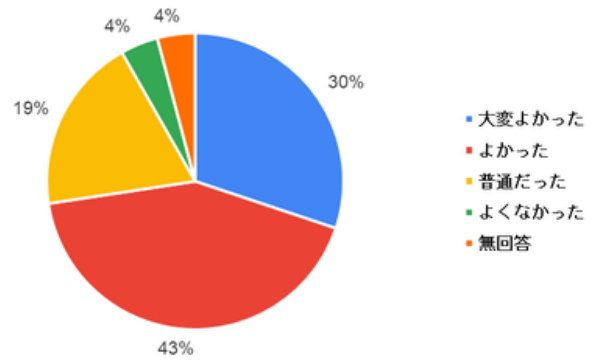
身近な人たちの話が聞けて参考になった。
自分の地区に戻って、活動を見直したい。

アンケート結果

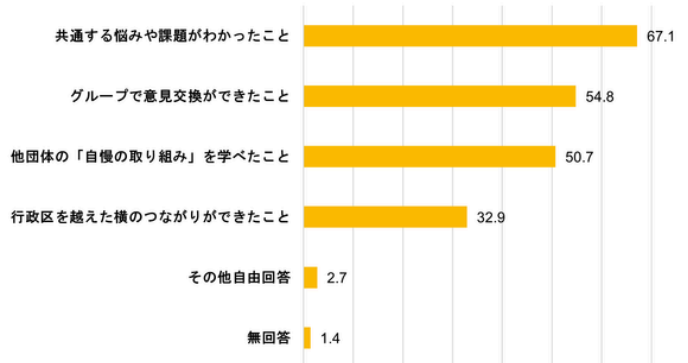
研修会前半（4団体の発表）の満足度



研修会後半（少人数のワーク）の満足度



学びになった/今後に生かせると感じた点（％）



研修会の後半は、事例紹介をもとに、各地区での状況について確認し、今後について考える付箋ワークショップを行いました。

「自団体の取り組み自慢を書き出そう」「困っていること、心配ごとを書き出そう」「理想的な状態を書き出そう」の3ステップで、事例を参考に自身の地区活動の現状、課題、理想を考える時間をもちました。

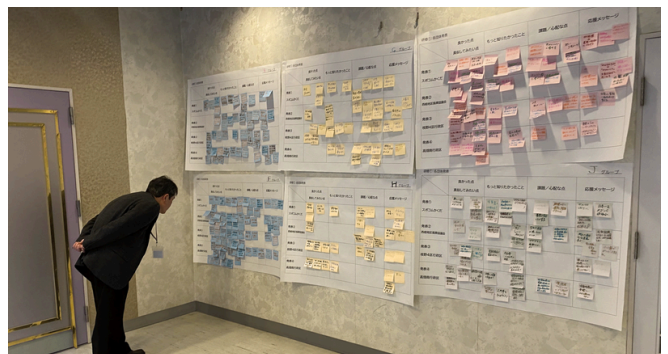
各行政区の自慢として、「自身の地区でも芋煮会で交流をしている」という区や、「地区の運動会がなくなってしまったので、地域の防災訓練と運動会を組み合わせた防災運動会を開催している」などの声があり、事例に負けず劣らずコミュニティの維持や多世代コミュニケーションにつながる自慢の取り組みを相互共有することができました。

一方で、地域活動を展開するにあたっての課題感に関する声もありました。例えば、「人手と体力が必要な草刈りに困っている」「とにかく人がいない地域なので、資金よりも人の助成やサポートがほしい」といった意見が聞かれました。どれも一朝一夕にはいかない課題ばかりですが、できていることに目を向けて考えたり、同じ悩みを共有できたこと自体が励みになる

といった意見もありました。

アンケートの自由回答では、「どこの地区も困り事は一緒であった。また、地区によっては、区民の協力性が良好な地区もあり、今後のイベント等の企画、設計時の参考にさせていただきます」など、地区の運営方法から着想を得たり、「少人数の区、大人数の区でも色々問題点がある事を共有できた」など、区を超えて活動を俯瞰する機会になった様子も伺えました。

「地域の自慢から始まるまちの活性化と交流」のテーマ通り、今回の研修で地域の良い面や既にできていることに目を向けつつ、前向きに地域活動を進められるきっかけになれば嬉しいです。



▲各区長からワークショップを通じて出た意見



イベント情報

■ モギー鑑賞会No.6

- 日 時:令和8年4月18日(土)
開場 13:00 開演 14:00 終演 15:00
- 参加費:一般1,500円 中学生以下1,000円
(当日券:一般2,000円 中学生以下1,500円)
※QUOカード500円プレゼント
※ポップコーン&コーヒー・ジュース無料
- 出 演:音伽屋
(和笛:保科利伸 キーボード:宍戸素子 ドブルギター:野崎廉)
- 場 所:モギーリサイクル小学校(旧東根小学校)
- お申込:モギーリサイクル小学校マネージャー 担当:三浦
TEL:070-1218-4941
MAIL:koki.chappa@gmail.com



▲過去のモギー鑑賞会の様子

■ ~宇宙飛行士を目指す君たちへ~

- 日 時:令和8年4月19日(日)
開場12:00 開会13:30 閉会15:30
- 場 所:かくだ田園ホール
- 参加費:無料
- 内 容:
 - ・特別講演「~宇宙飛行士を目指す君たちへ~」
講師:上垣内 茂樹氏
 - ・かくだコスモ分団活動発表/令和8年度活動スケジュール発表
 - ・友情出演「宇宙の子ども」合唱
(角田ベートーヴェン第九「喜びのうた」を歌おう会)
 - ・体験コーナー(ホワイエ): 宇宙飛行士訓練体験、宇宙ものさし
- お申込:日本宇宙少年団かくだコスモ分団 事務局
TEL:080-1830-0027

☆クラウドファンディング実施中!☆

ワクワクしたい子供達・大人達へ、宇宙のお話を届けたい!!

4月20日(又は目標金額60万円達成時点)終了

4月30日~ 返礼品発送予定

詳細はこちらから▶



助成金情報

■ 真如苑「みやぎの居場所づくり助成」

- 助成対象:
高齢者や障がい児・者、児童、女性、青年などが、その人らしく過ごせるよう、人々を支援するための居場所づくりをする民間団体及びボランティアグループによる活動。オンラインなど様々な工夫で支援する活動も対象。
- 対象団体:
宮城県内で活動し、概ね1年以上の活動実績がある非営利及び公益的な活動をする市民活動団体やNPO法人等、及び概ね5人以上で構成するボランティアグループ
- 助成金額:
1件あたり上限30万円 ※総額150万円

最新の助成金情報などは

「みやぎNPO情報ネット」から▶



- 申込締切:4月30日(木)必着
- 問合せ:認定NPO法人杜の伝言板ゆるる
「真如苑みやぎの居場所づくり助成」事務局
電話:022-791-9323
- 助成金説明会(オンライン開催):
3月24日(火)に説明会を実施しました。
説明会の録画は右記のQRコードから
ご確認ください。



※募集要項・申請用紙は、当支援センターに設置しています!

編集後記

この度、本市の人事異動により、市民活動支援業務を離れることとなりました。そのため、私が「かくだより」編集に関わるのは本号が最後となります。これまで紹介させていただいた「かくだびと」以外にも、角田市で活動している方は、大勢いらっしゃいます。これからもどんどん紹介していきますので、「かくだより」の発行を楽しみにお待ちいただければ幸いです。角田市市民活動支援センターが開所され、あっという間に1年が経過しました。これまで関わらせていただいた関係各所の皆さま、市民活動団体等の皆さま、本当にありがとうございました。引続き、角田市市民活動支援センターをどうぞよろしくお願いたします。(鈴木)

